

伊豆國箱取
江戸城築城覚書

江戸城修築せよ

徳川家康

天下普請



伊豆國稻取石丁場 江戸城築城石 採石運搬乃図



▲石丁場乃図



▲石曳乃図



▲修羅曳乃図



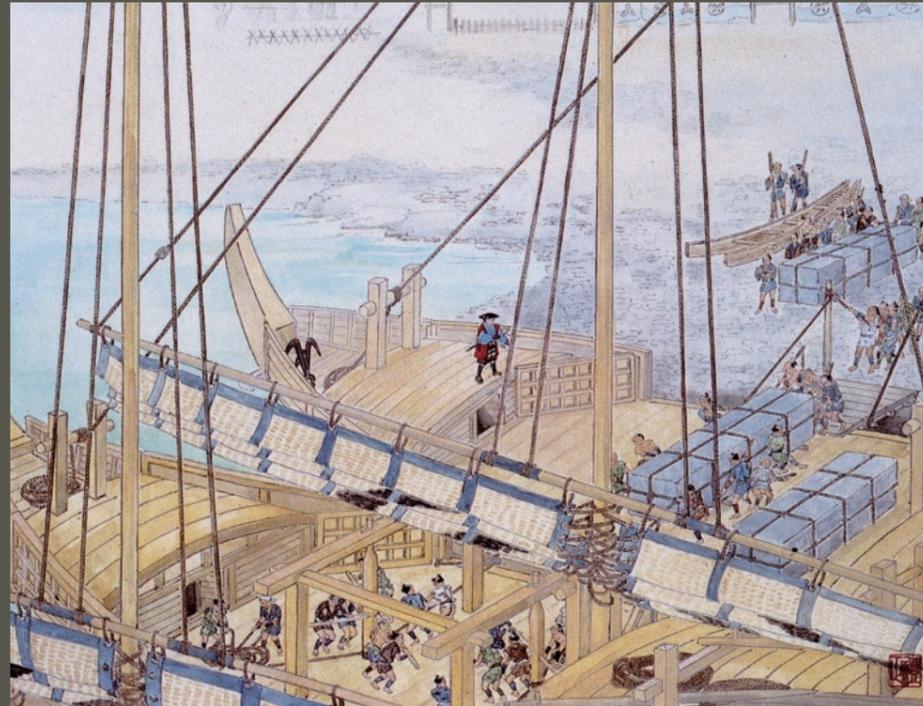
▲愛宕山石丁場御進上角石。近年、石材利用のため片側小口が割られてしまったが「進上 松平土左守」の刻字に気付き破壊を免れた。



▲愛宕山石丁場最上部付近の刻印と割石。「口」の刻印は長年堆積物に覆われていたため保存状態が大変良い。



▲石検乃図



▲轆轤船乃図



▲本林石丁場内、大型の矢割石が残る石丁場跡。矢穴跡は大型で築城石採石が開始されて間もない慶長期の石丁場跡と思われる。本林石丁場最大の見所でもある。



▲本林石丁場最大級の大割石。舞台状の大岩が見事に二つに矢割りされている。付近には角石を切り出したと思われる母岩と多数の矢穴石、矢割石が点在している。



▲磯脇石丁場付近磯丁場。積載の際、落下した角石。付近から切り出した築城石を積載船に運び込むために建てた檣の柱を支える柱穴石が発見されている。



▲磯脇石丁場の大岩。石面には刻印が二つ、南側石面には「越前」の刻字が見出されている。「越前」とは慶長十一年二月、稲取に派遣された土佐藩家老「百百越前安行」のことである。



▲向山石丁場に残る矢穴と釘抜紋が揃う大岩。釘抜紋は隣接する本林石丁場より多数見出され、有馬玄蕃頭豊氏の代表紋とされている。



▲本林石丁場、向山石丁場の延長線上、稲取志津摩海岸に存在する矢穴跡を残す大岩。志津摩海岸には多数の矢穴、矢割石が点在し採石時、積載する檣が作られていたと言われる。



▲稲取入谷地区のみかん畑に現存する祀の刻印。刻印は天地左右約20cmと大型で自然石に刻まれている。松平阿波守、蜂須賀阿波守が代表紋としていた。



▲本林石丁場。石面に繁茂していた藨と堆積物を取り除いたところ見事な矢穴と矢割り面が出現した。切り出そうとした石材の寸法から天端石採石の丁場跡ではないだろうか。

慶長八年、徳川家康の天下普請に始まった 江戸城大修理



慶長八年（1603）関ヶ原の役に於いて西軍を撃破した徳川家康は、征夷大將軍となり江戸に幕府を開いた。江戸の町を政治の中心とし、江戸城を江戸幕府の城郭とするため、家康は慶長九年六月、天下普請の号令を発令、江戸城大修理

を西国大名達に命じたのであった。

慶長十一年（1606）三月に工事が着工するまで築城石積載船の建造、採石、運搬が大がかりに行われた。築城石採石にあたり担当を命ぜられた大名は二八家となり、役高は五三〇万石に上った。十萬石に付き、人夫百人で運搬できる「百人持ちの石」千百二十個が割り当てられ、課役大名の役高から、その数は五萬九三六〇個に及んだ。築城石は主に堅石が採用され、良質な石材が採石した神奈川西部から伊豆東海岸より江戸に向けて多数の築城石が運ばれたのである。

大量の石材を運ぶための積載船建造の命を受けた主な大名は浅野幸長、福島正則、蜂須賀至鎮、細川忠興、黒田長政など外様大名二八家や尼崎又次郎など堺の大商人が請け負った。幕府は積載船建造に一万九二五両を支出し約三千艘を建造させた。

手伝普請に参加した十五家の西国大名が請け負った修築は本丸、外郭、天守台、虎ノ門、大手門、曲輪。大名によっては積載船建造、採石運搬、石垣工事など重複して命を受けた藩も存在したようである。

江戸城修築は慶長、元和、寛永時代まで徳川三代に渡って約三十年間続いた。三代將軍、徳川家光時代の普請は最も大規模で、寛永十三年（1636）の普請では全国から大名が動員され、総石高は六六四萬五千石に上った。西国大名が石垣・枡形工事を担当し、関東大名が壕・土手工事にあたり江戸城外郭工事が行われた。

徳川三代に及んだ江戸城大修理は、寛永十三年の普請を持って完成となったのである。

伊豆國稲取築城石採石図版



本林石丁場
向山・向田石丁場



徳造丸 志津摩直売店

- ……矢割石・矢穴石
- ……刻印石
- ……御進上角石
- ……角石
- ……埋蔵角石
- ……積込途中落下角石
- ……積出棧橋柱穴石

江戸時代初期の江戸城大改修築 (家康、秀忠、家光の時代)

- 一四五六(康正二) 太田道灌 江戸城築城開始
- 一五二四(大永四) 江戸城 小田原北条氏支配
- 一五九〇(天正一八) 豊臣秀吉の小田原攻め・北条氏政滅亡
- 一五九八(慶長三) 徳川家康の家臣戸田志次、江戸城を攻略
- 一六〇〇(慶長五) 豊臣秀吉没
- 一六〇三(慶長八) 関ヶ原の役
- 一六〇四(慶長九) 徳川家康・征夷大將軍
- 幕府、江戸の町造りに着手
- 六月・幕府江戸城の普請計画発表
- 八月・西国二十八大名に江戸城用石材と石船調達(三八五艘)を命ず
- 福島正則(大川のぼなき石を伐出した大名)は、石船一〇〇艘を
- 来年三月まで建造するよう国元の広島に命ず
- 一六〇五(慶長一〇) 秀忠・二代將軍となる
- 西国諸藩、伊豆で採石はじめる
- 一六〇六(慶長一一) 江戸城助役の諸大名江戸に上る
- 土佐藩・伊豆稲取に家老百百越前安行ら家臣数人を派遣し採石運搬す
- 江戸城修築(外郭石垣・本丸・二の丸・三の丸及び石垣)
- 薩摩藩・幕府より黄金一五〇枚与えられ石船三〇〇艘建造
- 江戸城修築(前年の継続・天守閣構築)
- 一六〇七(慶長一二) 三浦披針、伊東で西洋型帆船を建造
- 一六〇九(慶長一四) 江戸城修築(西の丸石垣・堀)
- 一六一一(慶長一六) 江戸城修築(西の丸石垣・堀)
- 一六一三(慶長一八) 土佐藩は一〇〇石積の石船三四艘建造
- 一六一四(慶長一九) 江戸城修築(本丸・二の丸・西丸外郭一部の石垣)
- 伊豆、相模の石塔に西国諸藩の家臣や人夫約五三〇〇人動員
- 大阪冬の陣
- 一六一五(元和二) 大阪夏の陣・一国一城令・武家諸法度
- 一六一六(元和三) 徳川家康、駿府城で没
- 將軍秀忠、上洛の際、酒匂川の舟橋用に稲取材から漁舟四〇艘出す
- 一六一八(元和四) 下田奉行所設置、須崎に仮番所
- 土佐藩「今度伊豆へ造法良之覚」を発す
- 一六一九(元和五) 土佐藩、鳥飼覚兵衛(御物頭五〇〇石)を稲取の石場担当に任ず
- 土佐藩、伊豆、相模に人夫ら約五〇〇〇人動員
- 土佐藩の稲取石場奉行の鳥飼覚兵衛、広島出陣に供できず
- 一六二〇(元和六) 土佐藩、江戸城用の石材献上
- 割石三一〇〇、角石一九、角脇石二九
- 江戸城修築(三丸、北丸、石垣外郭枡形門)
- 幕府、大阪城再建始める
- 江戸城修築(本丸殿閣・天主台)
- 一六二二(元和八) 徳川家光三代將軍となる
- 一六二三(元和九) 江戸城修築(西丸、大手橋、清水門、御蔵、日比谷門)
- 一六二四(寛永一) 江戸城修築(梅林門、西丸堀、山王土手)
- 一六二七(寛永四) 江戸城大地震(江戸城被害)
- 一六二八(寛永五) 江戸城大地震(江戸城被害)
- 一六二九(寛永六) 土佐藩、稲取石場奉行に渡邊半左衛門就く石舟二〇艘伊豆へ
- 土佐藩、材木五五〇本と稲取より角石二〇、平石三〇〇を献上
- 江戸城の地震復旧工事
- 土佐藩、石舟三五艘伊豆へ
- 土佐藩、二月に石材献上。角石二〇、平石一九五
- 徳川義直(尾張藩) 大川で採石
- 徳川頼宣(紀伊藩) 北川で採石
- 松平定行(桑名藩) 稲取で採石
- 細川忠利(小倉藩) 稲取で採石
- 前田利常(金沢藩) 稲取で採石
- 一六三五(寛永一二) ●伊豆大川での採石大名
- 立花宗茂(柳川藩)
- 立花種長(三池藩)
- 戸川正安(庭瀬藩)
- 平岡重勝(徳野藩)
- 桑山一玄(新庄藩)
- 稲取での採石大名
- 有馬直純(延岡藩)
- 山崎家治(成羽藩)
- 稲葉紀通(福知山藩)
- 九鬼久隆(三田藩)
- 一六三六(寛永一三) 参勤交代
- 江戸城修築(外郭枡形石垣外郭堀)
- 一六三七(寛永一四) 下田奉行所、番所を大浦に移す
- 江戸城修築(本丸殿舎・天主台改築)



【資料提供／稲取江戸城築城石丁場遺跡保存会】

東伊豆町内に現存する角石 (稲取地区以外抜粋)



▲羽柴左衛門大夫(福島正則)切り出しのぼなき石



▲細久保石丁場角石群



▲みかん畑に転がる角石



▲大川・三島神社の角石



▲寺山石丁場 東海岸最大級の角石



▲寺山石丁場 小口に矢穴を残す角石



▲角石を切り出した母岩が残る石丁場



▲民家裏庭に現存する完成角石



▲備前佐賀・鍋島勝茂担当石丁場の角石



▲鍋島勝茂担当石丁場の荒削り角石



▲谷戸山林道入口の角石



▲籬状の石鑿跡を残す角石



▲谷戸山斜面に残る角石



▲二柱並ぶ切り出された完成角石



▲谷戸山林道最深部の角石



▲谷戸山中腹に残る荒削り角石

東伊豆町で採石した諸大名

＜慶長・元和時代＞

大川・・・有馬左衛門豊氏（福知山八万石） 稲取・・・松平土左守忠義（土佐二十万二千石）
 福島正則（広島四九万八千石）

＜寛永六年＞

大川・・・尾張大納言義忠（名古屋六一万九千石） 稲取・・・松平隠岐守定行（桑名十一万石）
 堀川・・・紀伊大納言頼宣（和歌山五五万五千石） 細川越中守忠利（豊前・小倉三十万石）
 前田肥前守利常（金沢一一九万二千石）

＜寛永十二年＞

大川・・・立花飛騨守宗茂（柳川十万九千石） 稲取・・・有馬左衛門佐直純（日向延岡十万九千石）
 戸川土佐守正安（備中庭瀬二万二千石） 稲葉淡路守紀道（福知山四万石五千石）
 桑山左衛門佐一玄（大和新庄一万三千石） 山崎甲斐守家治（備中成羽三万石）
 立花民部尉種長（三池一万石） 九鬼大和守久隆（摂津三田三万六千石）
 平岡石見守重勝（美濃得野一万石）

御進上石（松平土左守の担当丁場から切り出された角石。小口に「進上（御進上）松平土左守」の文字または山内家の代表紋が刻まれ、稲取では八つ確認されている。）



▲磯脇石丁場の御進上石
 昭和54年に発掘調査されたが、以後放置されている。手前小口に「進上 松平土左守」の文字が確認されている。



▲役場庁舎海側の御進上石
 役場近くの民家建て替えの際、埋没していた御進上石を移設、現在の位置に移動させ展示されている。



▲栗田家の御進上石
 民家の玄関先に二つ並ぶ御進上石。見事な築城石で角石としては第一級。「豊石」の名称で親しまれている。



▲吉祥寺の御進上石
 吉祥寺本堂建て替えの際、裏山にて発見された。松平家（山内家）の代表紋「柏一葉」が刻まれている。



▲八幡神社の御進上石
 海岸線付近にあった御進上石を若者達で運び、忠魂碑の礎石とした。向かって右側に「進上 松平土左守」の刻字。

柱穴石（切り出した築城石を積船するための桟橋を建造した際、檣を支える柱を立てるための柱穴を巨石に開けて、桟橋を安定させた痕跡。現在、稲取地区のみ確認されている。）



▲磯脇石丁場付近の柱穴石。



▲左の柱穴石から十数メートル先に転がる柱穴石。



▲左柱穴石からさらに数十メートル先の大岩に開けられた柱穴。



▲磯脇石丁場の対岸。ホテルの直下海岸に二つの柱穴石が存在している。



▲稲取志津摩海岸の柱穴石。

刻印石（築城石を切り出した石丁場には様々な刻印が残されている。全国の城壁に残る刻印から石丁場の担当大名を判断することが出来るが、石工独自の刻印や石商人の刻印などもあり大名不明の刻印も多く存在する。）



▲愛宕山石丁場「や紋」
 同様の刻印が小田原、伊東市富戸の石丁場で確認されているが、使用者は不明。



▲愛宕山石丁場「轡（くつわ）紋」
 松平家の代表紋とされている刻印。同丁場には「進上 松平土左守」と刻字されている御進上石がある。



▲愛宕山石丁場「口紋」。
 同石丁場では二ヶ所で確認されているが大きさの違いから刻まれた時代に差異があると思われる。



▲愛宕山石丁場「田紋」
 愛宕山石丁場では最も多く見出される刻印。前田家の刻印とされるが定かたは無い。



▲磯脇石丁場「○に十字紋」
 東西南北各5m近い巨石に刻まれた刻印。巨石下部に松平土左守家老「百越前」と思われる「越前」の刻字あり。



▲磯脇石丁場「不明紋」
 巨石に矢穴と共に刻まれた刻印。風化が激しく確認不明。



▲吉祥寺御進上石「柏一葉」
 松平家の代表紋とされている「柏一葉」。大型の刻印で、角石の小口に刻まれている。



▲本林石丁場「Φ紋」
 加賀藩前田家の石丁場で多く見出されている刻印。



▲本林石丁場「三つ団子紋」
 備前平戸の松浦隆信（六万三千石）が大坂城普請で代表紋としていた。



▲本林石丁場「釘抜紋」
 本林石丁場で最も多く見出される刻印。有馬玄馬頭豊氏（福知山・筑後久留米）が代表紋としていた。